

社長定例会見（平成 28 年度 3 月）

2016 年 3 月 16 日

今月の内容は以下の通りです。

- ・ 社長挨拶
- ・ 最近の営業・輸送概況
- ・ シーサイドエクスプレスについて
- ・ 今後の路線展開について

1 社長挨拶

日本国民の皆様、初めまして。関鉄西日本株式会社代表取締役社長の大阪の小僧です。これから先、日本一の安全と利便性を追求し、路線開設・営業に全力を尽くしますので、宜しくお願い致します。

2 最近の営業・輸送概況

冬季（12～2月）の運輸取扱収入は、対前年 133.6%と前年を上回りました。これは、新路線の開業などによるものと考えております。年末年始は少し曜日の並びが悪かったということもありまして、1月は少しその影響が出ていますが、最終集計の結果、対前年比 103.4%と前年を上回りました

3 シーサイドエクスプレスについて

2019年春の開業を目指し、2015年12月に営業本部内にプロジェクトを立ち上げ、2016年2月には車両イメージや列車名、運行ルートを発表させていただきました。また、この2月からは営業本部内に「シーサイドエクスプレス推進事業部」を立ち上げ、運行に向けた準備を本格化しております。

本日は、シーサイドエクスプレスについてさらなる詳細が決定いたしましたので、お知らせいたします。

まず、車両コンセプトについてです。北陸や紀伊半島、伊勢湾、東海と海沿いを走行し、大阪と東京を結びます。また、日本らしい「和」を主張し、古くから伝わる沿線の魅力をお届けいたします。これらのことを踏まえ、車両コンセプトは「和の未来 懐かしい日本を駆け巡る」としました。懐かしい日本の伝統を発信していこうと考えています。

次に車両についてです。車両は、ツイン5両、シングル1両、スイート1両、展望車1両、食堂車1両、ラウンジカー1両の計10両を予定しております。また、運行本数を増やし、多くのお客様にご利用いただけるよう、3編成の製造を関西車輛株式会社様及び時崎インダストリー様に依頼しました。また車内は、車両コンセプトの「和の未来 懐かしい日本を駆け巡る」を感じていただけるよう木材を多く使用することにいたしました。その木材を客室ドア、机、壁、床の4つに分け、複数に分けて使用します。その木材は「能登ヒバ」、「飛騨唐松」、「優良材」の3種です。



能登ヒバ



飛騨唐松



優良材

そして、各地の沿線の魅力を発信するため、金沢駅、高山駅、白浜駅、伊勢市駅にて、お客様には電車から降りていただき、バスやタクシーなどで各地の名所を訪れるための「立ち寄り観光」をプランに設けます。現在の予定では、ツアー内容に含む名所を1～2ヶ所ご用意しその後、発車時間までタクシーや徒歩にてお客様が自由に観光できるようなプランを計画しています。そのための、バスやタクシーを新規導入し専用車両とするため、4月から9月まで車両デザインの一般募集を行う予定でございます。皆様のご応募をお待ちしております。

さらに、乗降可能駅が従来の大阪駅、京都駅、東京駅に加え、新大阪駅、関鉄難波駅、品川駅の計6駅を予定しています。これにより乗降可能駅での観光がさらにしやすくなります。

3 今後の路線展開について

今月12日に関鉄西日本初の自社負担路線（関鉄本線、関西空港線、関鉄奈良線）が開業しました。運行初日より多くのお客様にご利用いただいております。沿線住民や自治体、また運行するにあたりご協力いただきました皆様方に感謝申し上げます。ありがとうございます。今後は、和泉中央と大阪、そして京都を結ぶ関鉄大阪線、関鉄京都線と大阪の中心部を1周する関鉄大阪環状線の開業を2017年春に予定しています。またこれからは、関鉄本線の関鉄日根野駅より南の和歌山を目指し、最終白浜まで延伸する関鉄紀伊線をはじめ、関鉄奈良線の大阪国際空港延伸、関鉄京都線から先、米原・敦賀・福井を抜け金沢まで路線をつなぎます。さらに、西へは関鉄大姫連絡線の尼崎港と宝塚を結ぶ関鉄宝塚線の開業を予定しています。

なお、2017年の開業を予定していました関鉄舞鶴線は、事情により開業を2019年に延期させていただきます。ご利用のお客様にはご迷惑をおかけいたしますことをお詫び申し上げます。

そして関鉄西日本株式会社では、グループ会社の関鉄東海株式会社と連携し、2019年に世界初の超電導リニア新幹線の開業を博多～大阪～東京で予定しています。さらに西側では、関鉄リニア九州新幹線の全線着工が2016年3月15日に決まりました。開業は、2035年を予定しています。

KANTETSU WEST

関鉄西日本株式会社